

## 平成 28 年度第 1 回京都市図書館協議会摘録

○日 時：平成 28 年 12 月 14 日（水）

午後 3 時 30 分～5 時

○場 所：京都市生涯学習総合センター（京都アスニー） 第 3 研修室 A

○出席委員：[10 名中 9 名出席]

岩佐 恭子 委員

岩崎 れい 委員

北村 哲夫 委員

角谷 真子 委員

永田 信一 委員

西川恵理奈 委員

福井 雄大 委員

松田 晋 委員

山下 純夫 委員 （五十音順）

○傍 聴 者：1 名

### 1 開会

(1) 出席委員紹介

(2) 事務局紹介

(3) 中央図書館長の挨拶

- ・京都市の図書館は 20 館あり、分散型。生活に密着した図書館構想を京都市は誇りに思っている。
- ・図書館には読書人口を開拓する役割が残されている。市民の 3 割が図書館カードを作成しているが、最近の調査では図書館に行きたいけど行かない人が約 6 割いるとのこと。
- ・京都市の図書館はこれまでから乳幼児や児童・生徒を主に大切にしてきたが、増えつつあるシニア層に向けてもさらに目を向けていかななくてはならない。
- ・読書を教養としてだけ捉えるのではなく、より生活に密着したものとして捉え、そのようなニーズに応えられるよう委員の皆様からも大所高所からの意見をいただきたい。

### 2 報告事項

事務局から資料に基づき以下の項目について報告した。

(1) 京都市図書館の利用状況等の推移について

貸出冊数・入館者数は、過去10年の推移をみると、平成18年1月からのインターネット予約の開始や平成20年6月の右京中央図書館の開館により増加し、平成22年度にはピークを迎えたが、その後3年間微減傾向となった。しかし、平成26年度には、地域図書館の第2・第4水曜日の開館や図書館全館の午前9時30分開館により増加に転じ、27年度にはブックリサイクルなどの利便性向上の取組が浸透したことによりさらに増加し、2年連続の増加となった。

27年度のその他の指標も前年に比較して増加しており、とりわけ予約件数とブックメール運搬数は前年度比で5%増となっていることから、利用される方が自身の読みたい本をピンポイントで予約し、最寄りの図書館に取寄せて利用するという形態が広がってきていることがうかがえる。

(2) 京都市図書館の平成28年度の取組状況について

ア 4中央館における土曜夜間開館の試行実施

図書館では、利用される方の実態に応じて、平日に夜間開館を実施し、土曜日・日曜日・祝日は午後5時までとしているが、利用者からの休日の開館時間延長の要望、特に土曜日の開館時間延長を望む声が多く寄せられていたこともあり、利便性の向上の取組として、平成28年5月から8月までの4か月間の土曜日に、利用者の多い中央館4館（中央・右京中央・伏見中央・醍醐中央）において試行的に開館時間の「午後7時まで」への延長を実施。

入館者数・貸出冊数は、1日当たりの数値で比較すると、前年度より双方増加している。

利用された方からは、引き続き実施してほしいという意見も多数寄せられたので、予算面の課題などはあるが、平成29年度も実施を検討している。

イ 隣接自治体図書館の相互利用の開始

平成28年4月から、市域が隣接し、古くからの地域的つながりの深い宇治市及び大津市と連携し、図書館利用者の利便性向上の取組として、図書館相互利用サービスを開始。利用登録（図書館カードを作成）することで、貸出・予約等のサービスが利用可能（ただし、在宅貸出・団体貸出・対面朗読サービスを除く）。

宇治市に隣接する伏見区の醍醐中央図書館・醍醐図書館・向島図書館、大津市に隣接する山科区の山科図書館の利用が多い。

ウ 障害者サービスの充実

障害者差別解消法の施行を受け、視覚障害のある方や一般の印刷物を読むことが困難な方、手話での会話を必要とされる方へのサービスの充実を図っている。

まず、視覚障害者や活字による読書に困難のある人が利用できるコンテンツをはじめ、暮らしに役立つ身近な情報など、様々な情報を提供するネットワークで

ある「サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）」へ平成28年7月に中央図書館が加入し、「サピエ」が保有するデータから、デイジー図書（CDになった録音図書）を作成して利用対象者に貸し出すなどのサービスを実施している。また、中央図書館では、デイジー図書の貸出とともに、デイジー図書再生機の貸出も実施している。

次に、弱視の方や高齢等により文字の見えづらい方にも図書館資料を活用していただくために4中央館に設置している「拡大読書器」について、より積極的に図書館を活用していただけるよう、機能性が高く扱いやすい機器に更新を行い、平成28年10月26日から利用を開始している。

最後に、平成28年3月25日に制定された「京都市手話言語がつなぐ心豊かな共生社会を目指す条例」の実践として、図書館事業を受託している公益財団法人京都市生涯学習振興財団において全職員を対象とする手話研修を実施。1回2時間の研修会を計10回開催し、窓口等で実際にかわされる会話を中心に学んだ。

エ ブックスタートコーナーの新設

平成28年6月1日から、市内の保健センター・支所において、8箇月検診を受診した赤ちゃんに対し、絵本1冊（5種類の絵本から保護者が選択）とリユースできる手提げ袋等をあわせた「読み聞かせスタートパック」を無料で贈呈する「京都版ブックスタート事業」を開始。

図書館も本事業と連携し、5月20日から、全館に「ブックスタートコーナー」を設置し、贈呈対象の5種類の絵本（館内閲覧用）と本のもり赤ちゃん編に掲載されている絵本30冊の展示・貸出を実施。

オ その他

昨年度から実施しているブックリサイクル及び図書の郵送・宅配返却を平成28年度も引き続き実施している。

### （3）第3次京都市子ども読書活動推進計画の取組状況について

ア 図書館整備

トイレの洋式化、児童コーナーの整備を実施。トイレの洋式化は、26年度・27年度、伏見中央図書館、北図書館、東山図書館、吉祥院図書館及び中央図書館で実施し、28年度は西京図書館、向島図書館及び久我のもり図書館で実施予定。児童コーナーの整備は、26年度・27年度、北図書館、吉祥院図書館、久世ふれあいセンター図書館、東山図書館及び西京図書館で実施し、28年度は山科図書館及び洛西図書館で実施予定。

イ 出前事業専用車両「青い鳥号」による学校・園等への出前事業の推進

図書館用に改造した軽ワゴン車を平成26年11月から導入。司書が小中学校や幼稚園に出向いてブックトークや読み聞かせ、また、教員や学校司書への研修

等を行う際に、その事業に合わせて選んだ本を積んでいき、本の紹介等を行う。  
28年度も11月末段階で70回実施している。

#### ウ 乳幼児の保護者用読書ノートの作成・配布

乳幼児の保護者の方を対象に、子どもの成長に合わせて、その時々でよく読んだ本を書き込める読書ノートを図書館、保育所等で配布。28年度からは、保健センターのブックスタート事業で配布する「スタートパック」に同封し、8カ月検診時にも配布している。

#### エ 学校図書館支援事業

公共図書館と学校・学校図書館が連携を深め、不読率の高まる中学生への対策や各学校で読書活動推進の中心的な役割を担う学校図書館運営支援員（H28年度から「学校司書」）のスキルアップと情報交換を進めるため、平成26年度から取り組んでいた「中学校読書活動モデル図書館事業」や「学校図書館運営支援員研修会」等の事業を統合し、平成28年度から読書活動推進に向けた新たな取組として「学校図書館支援事業」を実施している。

具体的な取組として、学校団体貸出の推進や学校へ出向いてのブックトークの実演や読み聞かせ講座等の実施、公共図書館のティーンズコーナーの充実・ティーンズ向けブックリストや図書館だよりの作成などを実施している。

さらに京都市ならではの取組として、市立小学校と連携し、1年生から6年生までの計23のテーマに関して「調べ学習のための推薦図書」リストの作成・提供を行ったり、学校司書を対象とした読み聞かせ・ブックトークに関する講習を公共図書館の司書が講師として実施し、好評を得ている。

### 3 報告事項に関する質疑応答

意見： 第3次子ども読書活動推進計画には5つの方針があった。そのうち「子どもをとりまく読書環境の一層の充実」「本の魅力と大切さを伝えるための機会づくり」及び「子どもたちによる、共有・共感し合える読書活動の推進」については、取組が進められていると感じるが、「京都の魅力や歴史、伝統文化などに親しむ読書活動の推進」及び「生涯にわたる学びにつながる読書の習慣付け」については、まだこれといった取組がないのではないか。

意見： 伝統文化の本を調べやすいようなシステムを作ったり、また最近ではレンタルショップやその他書店などが魅力的になってきていることもあるので、図書館にしかできないサービスに注力してはどうか。

意見： 児童サービスもやれば地域に根差したサービスも行うなど、いずれのサービスも充実させるという高い目標は理解できるが、闇雲なサービスの充実で達成できるとは思えない。どのような図書館を目指すか、そしてその図書館でこそ達成可能なサービスについて、具体的なマイルストーンを設定し、共有してほしい。

意見： 学校では読み聞かせ等を行っているが、読み聞かせ用の本のリストがあると大変助かる。「本のもり」もあると思うが、5分程度で子どもたちが興味ひかれるような読み聞かせ用の本リストがあるとありがたい。

意見： 中学校用の調べ学習用リストも作成してもらえるとありがたい。

また、中学校では学校図書館を利用した授業を進めている。このことにより、子どもたちが将来にわたり公共図書館などを利用していくスキルが身につけばと考えている。

#### 4 協議事項

＜事務局から協議事項について説明＞

##### (1) 図書館の魅力向上について

前回の協議会でも提案されていたものの進捗状況を含めて報告する。

##### ア ベストリーダー及びベストオーダーの提示

ベストリーダーは、京都市では HP 上で行っておらず、ベストオーダーは、京都市図書館でも「人気のある本」として実施している。ただし、現在のシステムでは職員の手作業によりリストを作成していることから、一覧から蔵書情報を閲覧したり、予約したりすることについては、システムにも関係する事項であるので、平成29年度末に実施予定のシステム更新の際に、費用対効果を含めて研究する。

##### イ 魅力的だがあまり貸し出しされていない本の紹介

図書館で一度も借りられていない本の展示などは行っていないが、あまり借りられていない本を司書が掘り起し、各館で実施しているテーマ展示において他の本とともに紹介するなどの取組は行っている。読まれていない本の抽出やその中から司書が読んでほしい本を選択することも一定の時間があれば可能だが、どのような形で紹介するかについては、慎重に検討したい。

##### ウ 司書による書評の掲載

京都市図書館広報誌「京図ものがたり」へ司書がすすめる本の掲載や、各館のテーマ展示の際に簡単な本の紹介や「本のもり」の作成、ティーンズ向けのブックリストの近隣中学校等への配布等を実施、さらに平成28年度の秋の読書週間記念事業として、司書134人がおすすめる「司書のイチオシ！」を実施し、各館での掲示や「京図ものがたり」への掲載とともに、HPへの掲載も行った。テーマ選定や掲載頻度なども含め、継続的に実施できないかを検討していく。

##### エ 外国語の案内表示・絵文字サインの活用等

各館の状況を踏まえ、わかりやすい表示について検討していきたい。

##### オ 図書館資料を活用して互いに学びあう「場」の提供

図書館の多目的スペースで図書館の資料を用いて事前学習した後に近隣の史跡

などを巡るという提案については、全ての館に多目的スペース等があるわけではなく、対応できる館が限られているので、多目的スペース（研修室）のある右京中央図書館において実施を検討している。

#### カ 大学・専門家との連携

これまで、地域図書館を中心に大学などと連携しており、既存の取組を継続させながら、新たな連携等も検討していきたい。

### (2) 京都市図書館 ご利用状況アンケート集計結果

平成28年2月に各図書館で図書館来館者を対象に実施したアンケートの集計結果が出たので報告する。

図書館に来られる頻度は、ほぼ毎日から月に2～3回までで9割近くとなり、2週間に1回、図書の貸出・返却に来館されるなど定期的に利用されていることがうかがえる。

図書館を利用する主な目的（複数回答可）は、資料の貸出・返却が7割近くとなり、次いで資料の閲覧・視聴、調べものとなっている。

よく利用される資料（複数回答可）は、文芸書が37.8%と一番高く、次いで実用書、専門書・学術書、児童書となっている。

充実してほしいサービスは、蔵書構成の充実が25%と一番高く、予約点数・貸出点数の増加、貸出期間の延長などの希望が多くあり、開館時間の延長の意見も一定数あった。その他の意見として、延長回数の増加やカードを忘れた際にも貸出できるようにしてほしいというものがあった。その他ハード面での要望もあった。

### (3) 平成28年度「窓口サービス 利用者アンケート」結果について

2年に1回、京都市役所の不特定多数の市民が利用する施設のうち月100人以上の利用がある施設で実施され、京都市図書館では、平成28年9月12日から19日の間、図書館利用者を対象に実施した。アンケートの中身は原則全市共通となっている。

対応の仕方、身だしなみ、接遇の態度、説明の仕方及び窓口の印象に関する10項目についてのアンケートで、概ね8割以上の方々から満足の意見をもらっている。特に対応の仕方、身だしなみは、9割以上の満足をいただいている。

自由記載欄の意見等は、窓口対応等に関して、「笑顔がない、無表情」「目を見て話してくれるとなお良い」という意見があり、また「大きな声で話してほしい」という意見もあれば、「他の人に聞こえるような声で言わないでほしい」という意見もあった。カウンターで臨機応変に対応する接客技術が問われていると考えている。

館内の状況等については、わかりやすさ、使いやすさを求める意見が多く寄せられた。

図書館利用全般に関しては、開館時間の延長、貸出期間の延長が多くあった。反面、DVDの貸出期間は、回転を速くするため、短くしてはどうかという意見もあった。また、館内でのふた付き容器での水分補給が可能であることから、自動販売機を設置してほしいという意見もあった。

なお、これまでの説明以外に、図書館の窓口対応に対して「気持ちよく利用させてもらっている」「親切丁寧速やかな対応で感謝している」「職員さんはよく頑張っている」など、多くのよい評価をいただいている。

## 5 協議事項に関する質疑応答

意見： 図書の貸出の延長について、一度返却すると図書館から足が遠のいてしまうこともあるので、できれば1回借りて長く借りられる方がありがたい。

回答： 現在は2週間の貸出を行い、他に予約されている方がいない場合、1度だけ延長が可能で、期間は2週間。1つの図書について、最長4週間借りることができる。

意見： 読んだ後でも本を手元に置いておくのが回転を遅くしている。返却しやすくするため、返却ポストの増設が求められているのではないか。

意見： 感覚的な問題となるが、約1か月かけて読めない本は期間延長しても読めないのではないかと思う。1か月が妥当な範囲ではないか。

回答： 延長回数の増加というよりも、返却期限を1～2日程度過ぎた図書で予約がない場合、延長ができず、一旦書棚に戻してから借りてもらおうという手順で行っており、1～2日程度の期限が過ぎている程度なら、予約のついていない資料を窓口でいったん返却処理をした後すぐに貸し出したとしても支障はないのではないかと、そのような対応を可能にしてはどうかというもの。

また、1回延長した図書を窓口に戻却に来られた際にもう少し借りたい場合にも、一旦返却処理をした後に書棚に戻したうえで借りてもらおうという手順になっているので、それへの対応も含まれている。

さらに借りた図書館の所蔵ではない図書の2回目の延長についても、一旦返却処理後、所蔵館に戻したうえで再度予約などして借りてもらおうという手順となっており、それへの対応も含めて、予約がないなら図書館の窓口ですぐに貸出してもいいのではというもの。

意見： 次に予約がない等場合には、臨機応変に対応してもらえるとありがたい。

回答： 予約の無い本を何回も延長することで、当該利用者がずっと借りている状態になるということも懸念されるが、稀なケースであり、対策は可能だと考えている。

意見： 予約しようと思っても、貸出されているとなるといつ返却されるのか、2週間後になるかもしれないと思い、予約することをあきらめてしまうこともあるので、予約がない場合でも現在の手順で返却してもらおう方が良い。

意見： 貸出中予約がついていないからと言って利用したいと思う人がいないというわけではない。一方延長回数1回が妥当なのかどうかも議論のあるところ。何度も延長されて永遠に借りられることは困るが、延長は2回までとして規程を緩めるのも一つの考え方。また返却が遅れている場合の再度の貸出についても、1日～2日なら問題ないが1週間ではどうなのかという考え方もある。図書館側や事務局でも検討してもらいたい。

回答： 線引きが難しいところもあるが、検討していく。

意見： カードを忘れた場合の免許証などの身分証明書の提示による貸出について、民間でも、例えばレンタルショップでカードを忘れた場合は貸出できないので、図書館でも同様の取扱いをしたとしても民間より劣っているとは考えない。特に経費増などの負担がないなら、カードを忘れた際の貸出を行ってもいいとは思いますが。

回答： 予算増無く対応することは可能。職員の手間のみ。件数はそれほど多くない。

意見： 今回のアンケートは来館者を対象としたものであり、貸出の延長よりカードを忘れた場合の対応を検討、充実させた方が貸出サービス利用者の増加を目指すならいいのではないかと。

意見： カードを忘れた場合の対応は、忘れられることを前提とした話。忘れられないような、持って歩きたくなるような魅力的なカードを作ることが大切。赤ちゃんの出生届の際に渡すなどしてはどうか。

意見： 京都市の図書館のカードは他のカードと比較して若干大きいため、財布のカード入れに入らない。そのため忘れることがあるように思う。

回答： カードを新しくすることを考えており、次からはそのようなカードになるよう努めたい。

意見： スマホの画面で図書館カードのバーコードを提示できるようにすればいいのではないかと。スマホを忘れる人はあまりいないので。

意見： 70歳以上に限定すれば、敬老乗車証に図書館カードのバーコードを貼付すればいいのではないかと。

回答： カードのあり方として何がいいのか、ライフスタイルと合わせて選択できるようにできればいいが、まだそこまでは至っていない。カードの更新の参考にさせていただく。

意見： 図書館では様々なテーマ展示をこまめに行われているが、可能なら2～3冊程度の小規模でもいいので、時事ニュースに関連する展示が毎日行われるといいのではないかと。新聞もさらに読んでいただけるようになる。

回答： 職員体制の課題もあるが、最新の情報に応える図書館として、タイムリーな情報の取扱いも検討したい。

意見をいただいたので、できるところから、少しずつであるが実現していきたい。